

2013年11月8日掲載

「心に響く言葉」

最近、道内の中学校でマナー講座の講師をする機会が増えた。職場体験で社会人の方々と接する前に、あいさつやおじぎなどの基本姿勢を身につけるためである。中には恥ずかしくてワークをためらう生徒もいるが、学校で習わないと社会人になるまで学ばない人も多く、こちらも指導に思わず熱が入る。

中でも大切なのはあいさつである。あいさつは相手の心を開くコミュニケーションだ。私の父の話になるが、小さい頃、家族でファミリーレストランに行くと、店員が食事を運んでくるたび、「ありがとう」と言っていた。当時の私は「何度もあいさつして恥ずかしい」と思っていた。

しかし、大学生になって接客のアルバイトを始めたばかりのある日、年配の男性客が私の提供したコーヒーを飲んで帰る時に、私の目を見て笑顔で「おいしかったよ、ありがとう」と言ってくれた。

お客はお金を払って飲食しているのだから、店員にあいさつはなくても当たり前という感覚だったが、私に感謝の気持ちを伝えてくれたことがうれしかった。父の「ありがとう」の言葉は、相手の心を開いていたのだと気づいた。

先日マナー講座が終わった後、職場体験で中学生を受け入れたある企業は「今年の実習生はあいさつができています」とうれしそうに言っていたそうだ。私もうれしさがこみ上げた。あいさつの大切さを学んだ生徒たちが、将来社会に出た時に円滑なコミュニケーションを図っていけることを期待している。(毎日新聞より)